

第9回千葉県新型コロナウイルス感染症対策連絡会議 専門部会 概要

1 日時 令和2年8月18日(火) 18:00～20:30

2 場所 千葉県庁本庁舎5階 特別会議室

3 委員(敬称略・外部委員につき五十音順)

猪狩 英俊	千葉大学医学部附属病院 感染制御部長
入江 康文	公益社団法人千葉県医師会 会長
亀田 信介	一般社団法人日本病院会千葉県支部 支部長
神山 潤	東京ベイ・浦安市川医療センター 管理者
小森 功夫	松戸市立総合医療センター 副院長
眞田 範行	千葉県弁護士会 会長
角南 勝介	成田赤十字病院 病院長
寺口 恵子	公益社団法人千葉県看護協会 会長
中村 朗	総合病院国保旭中央病院 化学療法科 院長補佐
西牟田 敏之	公益社団法人千葉県医師会 公衆衛生担当理事
馳 亮太	成田赤十字病院 感染症科部長
宮崎 勝	国際医療福祉大学成田病院 病院長
山本 修一	千葉大学 副学長
石川 秀一郎	千葉県衛生研究所 所長
杉戸 一寿	千葉県保健所長会 会長
山崎 晋一郎	千葉県病院局長

4 関係機関等

舘岡 恭子	千葉市保健福祉局 医療政策課 担当課長
松野 朝之	船橋市保健所 次長
檜舘 洋子	船橋市健康政策課 課長
戸来 小太郎	柏市保健所 保健予防課 課長
広木 修一	柏市保健所 保健予防課 専門監

松本 尚	千葉県災害医療コーディネーター
吉村 健佑	千葉大学医学部附属病院次世代医療構想センター センター長

5 県側出席者

加瀬 博夫	健康福祉部長
渡辺 真俊	保健医療担当部長
中村 勝浩	健康福祉部 次長
石出 広	健康福祉部 次長
内田 信	健康福祉部 参事
久保 秀一	健康危機対策監
井上 容子	健康福祉政策課長
横田 裕之	健康福祉政策課 副参事
大野 義弘	健康づくり支援課長
舘岡 聰	疾病対策課長
田村 圭	医療整備課長
菅沢 淳一	衛生指導課長

6 議題に係る主な意見等

○情報システム（HER-SYS 及び G-MIS）について

- ・入力が必要な情報システムが複数あり、病院スタッフ総出で対応しないと処理しきれない状況。インターフェイスも使いやすいものとしてほしい。
- ・今まで保健所と病院で発生届をファクスでやりとりしていたものが完全になくなるのであれば、HER-SYS を使う意味がある。

○フェーズ3と今後の対応

- ・ホテル療養中に患者が急変して死亡した場合、ホテル療養を勧めるという判断をした医師を含め、運営者である自治体の過失責任が問われることになる。ただし、医師については、患者に対してきちんと施設の安全性の説明をすることや、施設に最低限安全性が確保されていれば、責任が免れると考える。なお、オンコール体制のように、急変時、医師の指示がすぐできる状態であれば、通常的安全性を備えていると思う。
- ・自宅療養について、現在の医療水準では、この人は急変するとは予見できない。そうすると、医師の責任という観点では、自宅療養の場合の急変者の責任は追及されないのではないか。一方、自宅療養の場合は、自治体は責任を問われる可能性がある。それは、ホテルでの療養が可能であったにも関わらず、当該患者をホテル療養させなかったという、不作為による過失責任である。国家賠償という観点から、ホテルを用意し、また、ホテル療養に努力を傾けた、ということが自治体に必要ではないか。
- ・在宅療養を進める場合、誰がフォローするのか、という問題がある。保健所では対応しきれなくなるのではないか。
- ・効率性を考えるのであれば、ホテル療養が大切。患者を物理的に集めて療養させるのが効果的。
- ・家族内感染も始まっていて、リスクと効率性の両面からすると、ホテルなど一か所に集めることがよい。
- ・成田ゲートウェイホテルに初めて行ったが、入所者の管理がしっかりしていた。そうした所と自宅療養では、管理の度合いが全く違う。
- ・今後、患者が多数発生した場合、搬送が鍵になる。都内ではマイクロバスで

複数人まとめて運んでいる例もあるようなので、そうしたところも参考としてはどうか。

- ・現状の感染状況が続くという前提であれば、費用面の観点から、ホテルの確保はいつまで続けるか、ということも考えることが必要だと思う。フォローアップについては、サチュレーションが一つの目安だと思う。サチュレーションモニターを自宅療養者に配るというアイデアもある。

- ・ホテルで重症化する患者はほとんどない。ホテルと自宅療養の選別が相当きちんとできるのであれば自宅療養を進めてもよいが、その選別ができないと大変なことになる。

- ・自宅療養をしている家族がいる場合、患者以外は陰性であっても、出勤や登校の自制を求められるなど、医学的というよりソーシャルな面で難しい問題がある。また、自宅療養は医療の目が入らないので、そうした面からも、ホテルを十二分に使い切ることが大切ではないか。

- ・ホテルは利用率の上昇を検討すべき。新たなホテルの運営は、既存のホテルが7～8割埋まってから考えるべき。搬送もそうだが、医療人材も問題ではないか。そのあたりも考える必要がある。

- ・ホテル確保の目的は、あくまで病院の負担を減らすということなので、その点を忘れずにいてほしい。

- ・自宅療養の健康観察は密に実施する必要がある。自宅療養を進めるのであれば、ホテル並みの支援が必要ではないか。